



SG9 議長（再任）

KDDI株式会社

みやじ さとし
宮地 悟史

〈プロフィール〉

専門領域：映像圧縮符号化及びIP伝送、動画配信事業企画及び推進

- 1995年 早稲田大学大学院 理工学研究科修了
- 1995年 国際電信電話株式会社（現KDDI）入社、研究所に配属
- 1998年 ITU-T SG9にアソシエイトレポートとして参画。映像IP伝送の勧告化を主導
- 2005年 東京工業大学大学院 総合理工学研究科 博士課程修了（工学博士）
- 2008年 KDDI技術統括本部 技術戦略部にて、Android OS搭載ケーブルテレビSTBの試作開発に従事
- 2008年 ITU-T SG9副議長就任
- 2012年 Android OS搭載ケーブルテレビSTB “Smart TV Box” の商品化並びにITU-T標準化（勧告J.295、J.296）
- 2015年 KDDI新規ビジネス推進本部 メディア企画部長
- 2016年 ITU-T SG9議長就任
- 2016年 KKBOX Inc.（現KKCompany Inc.）社外取締役（現任）
- 2018年 KDDIライフデザイン事業本部 エンターテインメントビジネス推進部長
- 2019年 株式会社ブックリスタ社外取締役（現任）
- 2021年 びあ株式会社社外監査役（現任）
- 2022年 ITU-T SG9議長再任（現任）
- 2022年 KDDI マーケティング統括本部 エンターテインメント推進部長（現任）

—— 先のWTSA-20での選出そしてご就任おめでとうございます。今回、議長に任命されたことについて率直なお気持ちをお聞かせください。

宮地 2016年のITU-T SG9議長1期目の立候補時よりご関係の皆さまには引き続き多大なるご支援をいただき、2期目も選任いただくことができました。ご関係の皆さまに深く感謝申し上げるとともに、ITU-T SG議長という重責を拝命したことに、身が引き締まる想いです。

—— ご担当事項（ご専門領域）とご経歴、ITU（SG）との係わり（年数など）、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

宮地 当時の国際電信電話株式会社（現KDDI）に入社以来、一貫して映像領域の業務に従事。入社後最初に配属された研究所では、映像圧縮符号化、映像IP伝送、テレビ電話技術等の研究開発に従事。その後、Android OS搭載ケーブルテレビSTBの試作開発及び商用化を担当。事業部門異動後は、動画配信サービスの事業企画・事業運営の責任者を務めるとともに、テレビ朝日との合弁事業TELASAの設立を主導。ITU活動は、1998年にITU-T SG9（＝ケーブルテレビ伝送）の映像IP伝送に関する研究課題のアソシエイトレポートとして参加して以来、2008～2016年SG9副議長、2016年SG9議長に就任し現在に至る。今年でITU-T活動25年目。また、2006年～2008年、ITU-T FG IPTV並びにIPTV-GSIに参加。そのほか、Open IPTV Forumにも参加（2007年～2010年）。

—— 次研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事とお考えでしょうか。

宮地 大きく2点あります。1点目は、SG9のモメンタム回復です。SG9は従前より参加者数40～50名の小さなSGでした。前会期、モメンタム回復に向けて、ジュネーブ外開催やワークショップの併催などに取り組み、参加者数44%増、勧告承認数29%増、ITU-Tへの新規加入9社／団体を達成しました。今会期も引き続き、モメンタムの維持拡大と、SG9の更なる魅力化を進めることが課題です。

2点目は、世界的に見てテレビ視聴の中心が、ケーブルテレビ放送から、AmazonやNetflixに代表されるOTTにシフトする傾向にあります。この流れを受け、ケーブルテレビインターネットの高速化技術に引き続き取り組むとともに、IPへの統合によるシステム全体の効率化に向けたケーブルテレビ放送のIP化を進めることが重要テーマです。

—— 議長としての抱負をお聞かせください。どのようなところに力点を置いて活動されるご予定でしょうか。

宮地 次のWTSA-24では、ITU-Tの組織見直し検討が本格化することが予想されます。今会期は、この準備期間と

して、SG9の活動成果が問われる非常に重要な期間と認識しております。SG9として、ケーブルテレビ関連技術課題の解決や進化に貢献するだけでなく、ケーブルテレビ業界の事業成長に資するための先端技術開発にも取り組みます。このように、SG9の業界への貢献を明確化し、存在意義を高めていく所存です。

—— 議長としての難しさや障壁はどのようなものが想定されるのでしょうか。また、そうしたことへの対処方法はどうお考えでしょうか。

宮地 ケーブルテレビは、その物理的な性質上、各地域や国に閉じたネットワークとなっています。これに起因して、各国で独自の技術開発が行われることがしばしば起こり、ITU-Tの場でグローバルコンセンサスを得られるよう導いていくことが必要となります。このためには、提案者とオフラインで会話し、提案の意図や達成目的を確認・交渉しながらITU-T勧告としてのゴールを見いだすことを並行して行うことが重要です。

—— ポストコロナのSGの活動はどうなっていくと思われませんか。また、どのようにしたいとお考えでしょうか。

宮地 世界中で進行するデジタル化（DX）及びコロナ禍での生活様式の変化を経て、人々の生活は過去に無い水準で“通信に依存”するものとなりました。このため、技術的要因やセキュリティ脅威等によって通信障害がひとたび発生すると、社会生活や経済活動に甚大な影響を及ぼす状況となっています。ITU-Tは、様々な観点から改めて通信の信頼性向上に向けた活動に取り組むことが求められ

ていると考えます。

—— 我が国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力についての期待をお聞かせください。

宮地 不安定な世界情勢、日本の人口減少や経済成長の鈍化といった背景を踏まえると、我が国の持続的成長には大変な困難が予想されます。このような状況下こそ、経済安全保障確保のためのツールの一つとして、ITUに代表されるデジュール標準化機関での活動を国の戦略策定の中で具体的に定義し、体制構築と実行につながることを期待します。

—— 最後に、個人の信条や、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

宮地 「常に目的意識を持つ」ことを信条にしています。プライベートでは、街歩き、キャンプ、旅行などを楽しんでいます。

—— 読者へのメッセージをお願いいたします。

宮地 このような時代において、ITUのような国際標準化機関は、何のために存在し、どのように使い倒していくべきなのか?ぜひ皆さま一人ひとり考えてもらえたら幸いです。そして、何かの実現のためにITU活動をやってみたい、と思った際には我々ITU関係者に気軽にお声がけください!

【読者のための豆知識】

SG9の活動内容：音声映像コンテンツ伝送及び統合型広帯域ケーブル網

ITUが注目しているホットトピックス

ITUのホームページでは、その時々ホットトピックスを“NEWS AND VIEWS”として掲載しています。まさに開催中の会合における合意事項、ITUが公開しているICT関連ツールキットの紹介等、旬なテーマを知ることができます。ぜひご覧ください。

<https://www.itu.int/en/Pages/default.aspx>